

石橋北小学校 学校評価アンケート 考察

令和6年12月

項目2 授業はわかりやすい

児童の評価が昨年度より上昇した。児童がわかりやすいように、タブレットやモニターなど様々な機器の活用や教材、教具の工夫など実践の成果が表れているのではないかと。今後ともわかりやすい授業を目指して授業改善に努めていきたい。

項目3 授業に意欲的に取り組んでいる

児童は昨年度と同様のポイントだったのに対して、保護者、教職員が下回る結果となった。意欲的に取り組む姿として「自ら進んで行動する」「何事にも積極的に挑戦する」「自分の能力や学力を上げるために努力する」などが挙げられる。様々な生活場面で児童ができていることを認め励ましたり、声掛けをしたりすることで、児童の言動から意欲的な姿をより多く捉えることができるのではないかとと思われる。今後とも保護者、教職員が協力して児童を見守っていく必要がある。

項目6 よく読書をしている

ここでは児童、保護者、教職員が他の項目より下回っている。学校では、月1回の地域ボランティアによる読み聞かせや必読図書の設定、図書委員会によるイベントなどを実施しながら、児童に読書への興味・関心が高められるように取り組んでいる。下野市子どもの読書活動推進計画の中で、令和2年に行われたアンケートの結果が取りまとめられている。その中で「本を読みたくない理由は何ですか？」の理由として「読みたい本がわからない」「読むのが面倒」「ゲームやテレビのほうがおもしろい」との回答が多く、中でも「ゲームやテレビの方がおもしろい」という回答が増加傾向にあることがわかる。PCやタブレット、スマートフォンが児童の身近にある環境であることから、読書よりもゲームやYouTube、TikTok、SNSなどに接する時間が多くなっていると思われる。学校だけではなく家庭や地域と連携して協力し合い、読書をする環境を整え本に親しむ機会が多くなるよう取り組んでいきたい。

項目14 マナーを守って給食を食べている

ここでは、児童と教職員のポイントが上昇した。コロナ後も前向き給食を継続し、食べているときは黙食をし、食べ終わった後はマスクをして交流を図るなどの対応を取っている。保護者は低い評価となっているが、集団で準備し食べる給食と家庭での食事とでは環境が違い児童の態度が違うと考えられる。今後も食事マナーの意識が向上できるように指導していきたい。

項目15 安全を意識して生活している

児童は昨年度同様良好であるが、教職員のポイントが上昇した。今年度は下野スマートインターチェンジ工事のために若林南地区の通学路変更をおこなった。工事に加え新たに通行止めになる道路ができたことで学校周辺の交通状況も変化していることから、下校の際には十分気を付けるように声掛けを行っている。また、下野市内や近辺の不審者の情報なども担任を通して児童にも共有している。地震など災害時と同様に「自分の身は自分で守る」を合い言葉で避難訓練等も行っている。今後もより意識が高まるように取り組んでいきたい。

項目20 先生は、困ったことや悩み事を相談しやすい

昨年度に比べ児童のポイントは上昇しているが、保護者、教職員のポイントは下降している。普段の学校生活の中や教育相談期間などで、一人ひとりの児童にもっと時間を取りたいが、なかなか時間がとれないと感じている教職員は少なくはない。また、児童から直接保護者に相談し、学校へ連絡があることもある。教職員と保護者がより連携し、児童の困っていることに対して気づき、素早く対応することが今後とも重要である。

項目21 自分にはよいところがある

児童、教職員ともポイントが低くなっている。自分にはよいところがある（自己肯定感）と感ずるためには、人との関わりを通じて形成される。保護者や教職員をはじめとした児童に関わる全ての大人が、様々な場面で、児童のよいところを褒めたり認めてあげたりすることなどが大切であるとされている。また、よいところは積極的に褒め、叱るべきところでは叱るなど、大人が愛情を持って積極的に関与し続ける姿勢を示すことも重要であるとされている。保護者、教職員、地域の方々と自己肯定感を育めるようにしていくことが重要である。

項目24 学校は適切な教育方針を立て、教育活動を進めている

保護者のポイントが上昇した。「学校だより」や各学年の「学級だより」等では、3A運動や各種行事など児童の姿を通して各種活動のめあてやその達成状況をお知らせしている。また、「学校だより」や各学年の「学級だより」等をすぐーるで保護者へ配信しているので、多くの保護者に目を通していただいていると考えられる。今後も保護者や地域の方に学校を知っていただけるように発信していく。